

2016年度4世界展開力強化事業
中南米との大学間交流プログラム（短期留学）帰国報告書

農学部・農学科・1年 喜多崎 夏織

1、当初の目的

私は大きく分けて三つの目的を持ってこの短期留学に参加しました。一つ目は語学学習です。英語とスペイン語の両方における学習を期待しました。日本語を手放したとき、自分にどのくらいのコミュニケーション能力があるかを知りたかったのです。英語に関しては長い間勉強を続けていますが、実際に使ったことはほとんどありませんでした。読み書きができ、テストの点が上がっても、実際に英語で人とコミュニケーションをとることができるようになったと実感することはありませんでした。メキシコの地で、自分の英語を試し、その実践的なレベルを知ること、そして何がどう足りないかを見つけることを今回の英語における目標に掲げました。スペイン語に関しては、私はあまりにも知識がありませんでした。出発前に基本的な自己紹介文とあいさつ、数字、色などを覚えた程度でした。そこで、このように言語力が圧倒的に不足している場合、どのようにしたらコミュニケーションをとることができるかを模索することを目標として挙げました。スペイン語の勉強をすることはもちろんですが、このような場面は他の言語においても往々にしてあるはずで、今回はそのような場面に出会った時のことを具体的に考えるいいきっかけになるだろうと思いました。そして二つ目は、メキシコの文化を学ぶことです。特に食生活に興味がありました。メキシコの文化に触れることで改めて気づく日本の文化の良さもあるでしょう。今回の留学は、メキシコと日本の双方の文化において理解を深めるいい機会になるだろうと思いました。そして三つ目はメキシコの農業を学ぶことです。メキシコと日本とは気候や土壌条件、農業における歴史など様々な点が異なります。したがって、メキシコでは日本とは違う農作物やその栽培方法を実際に観察することが出来ます。農業が環境に伴ってどのような変化をするのかを、現場に触れながら考えたいと思いました。また、CIMMYTの見学ができるというのも私がこの留学の参加を決めた理由の一つでした。世界的な研究機関の見学など、なかなかできません。この機会を絶対に逃したくはありませんでした。以上の言語、文化、農業の三点が私の当初の目的のポイントです。

2、目的達成のために現地で活動した内容

メキシコでは様々な人と交流をしましたが、その中で言語について気づいたことが多くありました。まずは、留学先のチャピング自治大学の学生です。一部の学生はスペイン語だけでなく、英語も堪能です。私たちはスペイン語が分からないため、英語で話してくれます。私たちはお互いのことをいろいろと話し、会話を楽しみました。

しかし彼らと私とでは英語力に圧倒的な差がありました。例えば、わからないフレーズがあると、聞き取りやすいようにゆっくり、そしてはっきりと言い直してくれたり、何通りも他の表現に変えてくれたりします。また、質問に答え、簡単な質問を返すといった会話はできても、私から細かく話を展開させることは困難でした。言いたいことがあるのに、英語が出てこないのもそのまま見送ってしまうのです。このように、何度ももどかしい思いをしました。ちょっとした会話でも、頭をフル回転させているのでとても疲れました。私の英語は、必要事項を伝えたり、聞いたりすることはできてもコミュニケーションとして自由自在に操ることは難しいのだと痛感しました。しかし、同時にコミュニケーションの手段は英語に限らないということにも気がつきました。例えば、表情や身振り手振りです。これらは相手に自分の感情を伝えることができます。一番大切なのは、友好的な気持ちを相手に伝えることです。もっと話をしたい、話をするのが楽しい、と伝えることはいい関係を築く鍵になりました。これはスペイン語においても同様のことが言えます。学生や農家、他にも現地の人々は、スペイン語しかわからない人も少なくありません。この場合、通訳をしてくれる人がいなければ、彼らと私たちはスペイン語での非常に限られたやり取りしかできませんでした。しかし前述したように、表情や身振り手振りから多くのことを読み取り、コミュニケーションをとることが出来ました。相手のことをわかりたいと強く思うこと、言葉の壁を感じてもコミュニケーションをとることをあきらめないことが重要でした。もちろんスペイン語の勉強もしました。学校でのスペイン語講座のみでなく、日常の会話の中でも単語やお決まりの受け答えなどたくさんのスペイン語を教わりました。同時に、彼らも頻繁に私たちから日本語を学ぼうとしてくれました。彼らもまた、私たちのことを知ろうとしてくれたのです。とても心地よい時間でした。特にそのようなやり取りが多く見られたのは食事の時間でした。日本でも同じことが言えますが、メキシコでも食事はコミュニケーションをとるための重要な時間です。私たちは、メキシコ料理を存分に楽しみました。メキシコの主食はトウモロコシです。トウモロコシはメキシコ人にとって最も大切な穀物で、大学内ではトウモロコシの女神の像を複数見かけました。メキシコではトウモロコシはあくまで穀物として捉えられているので、日本のように甘いトウモロコシを茹でておやつとして食べたり、スイートコーンを食べたりする場面には出会いませんでした。トウモロコシを粉状にして焼いたのがトルティーヤです。トルティーヤは日本でいう白米のようなもので、あらゆる場面で出てきました。美味しかったです。二週間連続だと少し飽きました。白米を飽きたと感じることはありませんから、それぞれの国に慣れ親しんだ主食があることを実感しました。また、伝統的なメキシコ料理として、芋虫やアリの蛹を食べる機会もありました。味はいいのですが、虫だということ意識しすぎてあまり食べることが出来ませんでした。食材として馴染み深いものであるか否かは食事において重要なポイントであることに気が付きました。そして、慣れない食材でも積極的に美味

しく食べられることが文化交流のためには必要だと思いました。そして今回の留学で最も印象深いのはやはりメキシコの農業でした。この留学プログラムは農業を学ぶ機会にあふれており、素晴らしかったです。例えば、大学内の農業美術館を見学した際には、一つ一つの模型について英語で丁寧な解説を受けました。そして、メキシコの農業の歴史について学びました。15世紀頃にチナンパと呼ばれる農地がつくられ、養分を多く含む泥と豊富な水における農業が行われていたことは、この時初めて知りました。また、私は育種に強い関心があるのでトウモロコシの品種改良についての話は非常に興味深かったです。メキシコでは、収量の多い環境を求めてトウモロコシの生産地の移動を繰り返したことで、多様な環境に対応できる品種への改良が進んだのです。また、メキシコには多くのトウモロコシの品種があり、それぞれ適応する条件が異なるため、あらゆる環境下でトウモロコシの栽培ができるといいます。このように、長い歴史の中で自然に品種改良が進むというのは面白いことだと思いました。先人の経験的な知識や工夫が生産量を上げるための確実な結果を出したということです。また、日墨協会でのインターンシップでは、メキシコでの日本庭園の管理について学びました。日墨協会は日本とメキシコとの文化交流として、日本庭園を造っています。実際に、そこでは日本で見られる多くの品種が植えられていました。しかし、日本とメキシコとではあまりに気候が異なるため、発育がよくないものが多いようでした。また、四季がないため、桜の開花を一斉に誘発させるためには、葉を落とすなどの作業が必要なことも印象的でした。原産地と異なる環境下で農業をすることの難しさを目の当たりにしました。また、数々の農場に実際に見学に行きました。そこで、栽培方法、工夫、問題となっている病害とその対策等詳しく話を聞くことが出来ました。実際に現地を観察し、そこで働く人々の声を聞くことは貴重な経験でした。想像だけでは気が付かなかったことがたくさんありました。また、農村見学では日本語での説明を受けることができたため、細かい質問をして、多くの情報を正確に得ることが出来ました。そして特記すべきはCIMMYTの見学です。ここではトウモロコシや小麦の品種改良を主に行っています。前述したように、私は育種に強い関心があるので、大変興味深かったです。ここでの品種改良は、二点往復育種という方法を採用しており、これによって広範囲に適応できる品種の育成が実現します。また、品種改良だけでなく、育種の効率化も課題となっています。専門家の方の説明を聞いて、CIMMYTのような国際的な研究機関で研究ができたならどんなに楽しいだろうと思いました。これからの専門科目の勉強に対するモチベーションが一気に上がりました。また、品種改良の他に、遺伝子組み換えについてもお話を伺いました。倫理的にも安全性においても課題が多く世間的にはネガティブな意見が多いですが、研究をする必要性は十分にあるとわかりました。そして、シードバンクの中も見学しました。種の保存が非常に重要であることを実感しました。今回の短期留学では、農業とは何か、なにができるのか、どうあるべきなのか、そして私が農業のためにできることとは何

か、今まで以上に考えることが出来ました。

3、目的達成度の自己評価

当初の目的を意識しながら、二週間積極的に活動することが出来ました。英語やスペイン語、農業に関しては、もっと自分に知識があれば、ともどかしい気持ちになる機会が多く、悔しい思いをしましたが、この気持ちをバネに今後過ごしていこうと思います。

4、今後の取り組み（留学を踏まえて）

初めての留学を終えて、その楽しさ、学ぶことの多さに驚きました。今後もいろいろな国に行きたいです。そのためにも英語、スペイン語をよく勉強してもっと話せるようになりたいです。二年次にはスペイン語の授業があるので履修します。また農業の勉強に対しても以前よりモチベーションが上がりました。チャピンゴ自治大学の生徒は植物の名前やその特徴について非常に詳しく私たちに細かく説明してくれました。同じ大学生として私も負けてられません。また、様々なところの見学に行つて興味深い話をたくさん聞いたので、それらに関連付けて農業の勉強ができることを楽しみにしています。

5、プログラムに対する要望

日程の詳細や細かな連絡事項を留学先の大学と私たち学生とでもう少し共有できると思います。私たちが持っている情報が少なく思い違いをした場面がいくつかありました。